



2021 年度事業報告書

会計報告書

(公財) 京都 Y W C A

目次

■2021 年度(公財)京都 YWCA の概要

■2021 年度を振り返って

■事業報告；

I. 多世代・多文化ふれあいコミュニティづくりに向けた女性と子どものエンパワメント事業

(1)子どものエンパワメント事業

①多文化共生をテーマにした多文化共育プログラム（保育を中心に）

②多文化ルーツの子ども支援

(2)女性のエンパワメント事業

①移住女性一人親支援活動

②親・子育て支援活動

③自立援助ホーム「カルーナ」

④若い女性のエンパワメント

⑤シニア女性とともに

(3)外国籍市民のエンパワメント事業

①多言語相談事業「APT (Asian People Together)」

②にほんご学習支援事業「洛楽」

③留学生支援「すけっと」

(4)多世代・多文化による交流と協働の「ふれあいの居場所」事業を通じたボランティア養成事業

①平和・環境活動

②ふれあいの居場所事業

③ファンドレイジング

④ミッション推進活動

⑤100周年記念プログラム

II. 保育園事業

III. その他の事業

(1)サービス付き高齢者向け住宅「サラーム」事業

(2)その他 ①広報部 ②会館部 貸室・会館管理

■協力関係一覧

■寄付者一覧

■物品寄贈者一覧

■京都 YWCA 第 100 回定期会員集会記録

■会計報告

貸借対照表(2021年4月1日～2022年3月31日)

正味財産増減計算書(同上) /正味財産増減計算書内訳(同上)

財産目録(2022年度3月31日現在) /財務諸表注記 /監査報告書

【2021年度（公財）京都YWCAの概要】

■YWCAの基盤と目的

基盤：本会はキリスト教の価値観をもつ女性たちによって設立され、全能の神、イエス・キリスト、聖霊への信仰を基盤とする。

目的：この法人は、キリスト教の基盤に立ち、女性と青少年の力を育て、すべての人々にとっての正義・平和・人間の尊厳・自由・持続可能な環境の実現に寄与することを目的とする。

■日本YWCA 第33総会期(2020～2023年度)

- ・ビジョン：女性がリーダーシップを発揮し、人権・平和・環境を大切にする社会
- ・ミッション：若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます。
- ・バリュー

1. キリスト教基盤：すべての人は神の前に等しい価値をもつと信じ、常に弱い立場に置かれた者の側に立たれたイエス・キリストの生き方に倣(なら)って行動します。

2. 平和・環境：アジア・太平洋戦争の反省から生まれた平和憲法を活かします。すべての「核」を否定し、軍事基地を含む暴力のない公正で持続可能な社会をめざします。

3. 人権：人種・国籍・宗教・性・出自・年齢などの多様性を互いに尊重し、ジェンダー平等のもとで誰もが自分らしく生きることができる社会をつくりまします。

4. セーフスペース：会員(ボランティア)が主体的にプログラムを推進し、すべての活動を、多世代協働によって民主的に運営します。常に誰にとっても安全安心な空間をつくり、誰もがエンパワーされる場とします。

■京都YWCA 私たちが目指すもの(2021年度)

1. 女性や子どもの人権が守られる社会
2. あらゆる暴力を否定する社会
3. 多様性を尊重し異なる文化や背景を持つ人々と共に生きる社会
4. 「核」のない持続可能な地球環境

■会勢

1. 会員・会友(2022年3月末)

	本年度	前年度比
成人会員	135	-3
年少会員	0	±0
総数	135	-3

	本年度	前年度比
成人会友	18	-1
年少会友	0	±0
総数	18	-1

賛助員 48名



■理事会・評議員会・運営委員会・各部委員会

1. 理事会 年7回開催

理事：安藤いづみ、井上依子、上村兪巳子、岡佑里子、篠田茜、平野富希、山本知恵 以上7名

監事：井上勇一、有田孝子 以上2名

2. 評議員会 定例1回

浅野献一、小栗弘美、梶川雅子、神門佐千子、一色光世、弘中奈都子、藤尾実、福嶋由里子、宮武美知子、別所加恵 以上10名

3. ミッション推進活動運営委員会(2021年度 運営委員会会長 一色光世) 年11回開催

青野美佐江、安藤いづみ、イエニックふたみ、一色光世、大手理絵、奥山りつ、片岡英子、弘中奈都子、福嶋由里子、ヘイナ啓子、森のの子 以上11名

4. 各部委員会(2021年度責任者)

【ミッション推進活動関係】

*平和・環境活動委員会(青野美佐江)	在籍7名	年9回開催
*親・子育て支援活動委員会(安藤いづみ)	在籍10名	年10回開催
*活動グループ連絡会(一色光世、ヘイナ啓子)	在籍7グループ	年3回開催
*多文化共生委員会(ヘイナ啓子)	在籍10名	年5回開催
*ファンドレイジング委員会(イエニックふたみ)	在籍4名	年4回開催
*ふれあいの居場所事業部委員会(弘中奈都子)	在籍11名	年4回開催
*ユース委員会(片岡英子、福嶋由里子)	在籍8名	年4回開催
*100周年記念実行委員会(弘中奈都子)	在籍11名	年5回開催

【理事会関係】

*財務部(上村兪巳子)	在籍13名	年5回開催
*人事部(安藤いづみ)	在籍6名	年4回開催
*広報部(篠田茜)	在籍6名	年6回開催
*会館部(上村兪巳子)	在籍8名	年4回開催
*サービス付き高齢者向け住宅「サラーム」委員会(上村兪巳子)	在籍12名	年4回開催
*自立援助ホーム「カルーナ」委員会(平野富希)	在籍16名	年6回開催
*保育園事業部(安藤いづみ)	在籍10名	年5回開催

■在職者(2021年度 フルタイム職員のみ)

饗庭純子、荒川幸子、井上依子、岩佐恭子、大隅八恵子、岡佑里子、木下和江、木之本ジェイン、白土友子、張善花、中西紫、中村仁美、御前麻里、西口裕侑、森恵子、八頭司めぐみ、湯川沙央理、安田佐代子、山本知恵、横川宏美

<受付アルバイト> 大森淑子、森のの子、ド・ヒョンジョン、ソン・ヒョンジン

2021 年度を振り返って

代表理事 上村兪巳子

2021 年度も新型コロナウイルス感染症流行のため各事業が制約を受けました。その一方、オンラインの活用と来場の併用によるハイブリッド化が日常化し、遠隔からの参加も増え、会議やプログラムの可能性が広がりました。新型コロナウイルスへの対応策をとりながらも各事業において着実な働きを続けたと言える 1 年でした。

女性と子どものエンパワメントと多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり事業

1. 女性と子どものエンパワメント事業

●女性と子どものエンパワメント

親子ライブラリーの活動 20 周年を記念して、創作ユニット tupera tupera による「絵本ライブ」を子どもみらい館で開催し、コロナ禍の中で細心の注意を払いながらも多くの親子に絵本の楽しさを味わっていただきました。11 月には昨年同様「京都 YWCA 子どもフェスタ 2021」を規模縮小および参加人数制限を行いながら開催し、親子に楽しんでもらいました。

一方、多文化ルーツの子どもたちへの支援は、感染防止対策を行いながら学習支援および社会経験プログラムを通年で実施しました。拠点を醍醐地域にも広げ、地域コミュニティと繋がる支援を進めています。昨年に続き助成をいただき、緊急生活支援として多文化ルーツの家庭へ生活救援物資を送ることができました。

●若い女性のエンパワメント

概ね 15 歳から 20 歳の社会的養護が必要な女性を対象にした自立援助ホーム「カルーナ」では、2021 年は 5 人の利用者でスタートし、8 月に定員いっぱいの 6 人となりました。3 月末に高校を卒業して進学が決まった 1 名の退所者を送り出しました。利用者の多くは通学やアルバイト就労をしています。今年も 2 名に教育奨励金を提供し、退所者への支援と訪問も実施しました。コロナ禍でアルバイトが不安定化するなか、助成を得て、利用者・退所者を対象とした心身の健康につながる自律プログラムなどを実施できました。就労支援として「うららかふえ」のランチ提供や惣菜販売の作業に利用者・退所者数名が参加しました。

次年度は、数年来の課題である退所者のアフターケアと居場所づくりに積極的に取り組むことを目標として、年度末より新たに「若者の居場所」プロジェクト（「Y ここ Kitchen」と命名）のトライアルを実施し、次年度から本格的に実施していく予定です。

また、ユース委員会を新設し、SNS やボランティア募集サイト等を通じて京都以外の地域からのユースも加わり、「夜カフェ」「中高 YWCA 出前ワークショップ」「カルーナとのコラボプログラム」「平和について考える会」等を精力的に実施しました。

●シニア女性のエンパワメント

京都YWCAのサービス付き高齢者向け住宅「サラーム」の入居者に、多世代交流や地域社会とつながる機会を提供し、心豊かな生活の実現と社会参加を支援しています。コロナ禍で外出が制限される中でも、カフェでのランチ提供やいくつかの居場所プログラムが居住者にとっての人々との交流の場となりました。

また、本年も中高年の女性たちによるさまざまなグループ活動が、コロナ禍の制約を受けつつ工夫して実施されました。

2. 多文化共生社会に向けて——外国籍市民のエンパワメント事業

外国籍の人々と共に生きる社会を目指して、日本語教室「洛楽」、多言語相談活動（APT：Asian People Together）を行っています。

●にほんご教室「洛楽」

さまざまな国と地域にルーツを持つ約60名の受講生が日本語を学びました。緊急事態宣言発令中は対面授業を休講としましたが、5月、8～9月はオンラインでの授業を実施しました。オンライン形式を取り入れ、できる限り受講生達が学習を継続していけるよう工夫しています。

●多言語相談活動「APT」

外国籍住民を主な対象とした電話相談を週2回定期的に行う相談活動は、開始から30周年を迎えました。ボランティア相談員がケースに応じて、弁護士やケースワーカーとの協働、行政機関等への同行支援、通訳・翻訳ボランティアのコーディネートをしています。相談者の生活には新型コロナウイルスの影響が多方面で出ており、さまざまな形での対応が必要でした。

京都市子どもはぐくみ室から幼児健診の通訳依頼を受けているほか、生活相談に関わる通訳を伴う相談が増えています。自立支援の一貫として移住女性たちの横つながりのコミュニティづくり及びスペースの提供を試みました。

●女子留学生寮「あじさい寮」居住者支援

昨年に続き留学予定者の来日が困難な状態が続きましたが、留学生の入国が緩和された11月末に6名が入居しました。12月にオリエンテーションと多文化共生委員会主催の交流会を実施し、久しぶりに留学生とボランティアとの交流の機会がもつことができました。

3. ふれあいの居場所事業およびミッション推進ボランティア活動

●ふれあいの居場所事業

うららかふえチームが週3回ランチを提供し、外部団体である『京都府更生保護女性連盟』に委託して、月2回ランチを提供しました。また、高齢者や地域社会を対象とした居場所プログラムや多文化カフェを毎月定例で実施しています。

京都YWCAは京都府若者等就職支援推進事業の「認定基礎的就職支援事業者」となっています。自立援助ホーム「カルーナ」の利用者や退所者を含めた若者が就労経験の場として、カフェはもとよりYWCAでのさまざまな仕事を経験しています。

● ミッション推進ボランティア活動

持続可能な社会に向けてのボランティア活動を、今年もオンラインを駆使しながら実施しました。8月にFridays For Future Kyotoの学生をゲストに気候変動とシステムチェンジについての学習会を開催し、11月には子どもフェスタにて環境エネルギーに関する子ども向けのミニワークショップを開催しました。2011年から続けている福島支援の一環として、今年もオンラインで「福島は今」を聴くお話を実施しました。昨年より引き続いて防災に関するお話会シリーズを検討していく予定です。

● 100周年記念実行委員会の活動



100周年記念ロゴ

1923年に設立した京都YWCAは来年100周年を迎えます。設立以来女性の主体的な生き方とボランティア活動を通じた社会参加を支援してきました。その歴史をこれまでの周年誌に沿って辿るプログラムをシリーズで実施しています。また、歴史を未来へ引き継いでいくため100周年記念募金（目標1千万）を実施しています。ご寄付は次世代育成、京都YWCA あじさい保育園の保育環境の向上、「サマリア館」補修、歴史の継承に充てられます。記念式典は2023年9月23日に実施することを決定し、記念誌の発行、募金イベント開催、記念グッズの開発にも取り組んでいます。

保育園事業

京都YWCAあじさい保育園は開園2年目を終えました。コロナ禍による困難は続いています。初年度の経験を糧に運営は前年より円滑になりました。保育園事業部委員会が、定期的に課題を共有しつつ、京都YWCAの経験を保育園に活かす方法を模索しました。親子支援活動グループと協働して、リズム遊びや絵本の読み語りのほか、多文化を味わう「えいごであそぼう」「民族楽器にふれる」を昨年度より、また、21年度は「多文化プログラム」（韓国）を3回にわたって実施しています。地域の子育て支援としては、定期的に園庭開放を行うほか、親子のリズムあそび、親子ライブラリーを地域向けに実施しています。これらを通して地域の子育て支援の拠点としての役割を果たしていきたいと思っております。

その他の事業

1. サービス付き高齢者向け住宅「サラーム」

本住宅は、人々と出会い交流するさまざまな機会を高齢女性に提供する住宅として、2013年に国土交通省の「高齢者・障害者・子育て世帯居住安定化推進事業〈先導的事業〉」に選定されたものです。本年はほぼ開業当初から入居されていた方2名を含め、健康上の理由で計3名の方が退去される一方、新たな入居もありました。

2. 会館事業（貸室・会館の維持管理）

会館内の部屋を地域のさまざまな活動のためのレンタルスペースとして利用していただいています。4月と8月の緊急事態宣言を受けて貸室利用を停止しましたが、宣言解除後は利用者に感染防止ルールを守っていただきながらの貸室を再開しました。W・M・ヴォーリズ設計の1936年建設の木造建物サマリア館の補修は長年の課題でした。サマリア館の歴史的建物としての価値を広く知っていただくために、京都市の「京都を彩る庭園・建物」選定・認定制度での「選定」に応募しました。

今後の展望

「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」の推進

あじさい保育園は3年目を迎え、子どもの安全確保と健康維持に努めつつ、京都YWCAらしきのある保育を進めていきます。長年続けてきた親子支援の経験を活かして、地域の子育て支援ステーションとしての役割を一層推進します。さらに、卒園児や地域の小学生以上の子どもにとっての居場所づくり、子どものエンパワメント事業を構想し、実現していきたいと思えます。

自立援助ホーム「カルーナ」と若者就労支援事業を通じて、生きづらさを抱える「若者の居場所づくり」を推進していきます。また、外国にルーツを持つ住民と共に生きる地域コミュニティ構築のために、多文化共生に向けたさまざまな支援の在り方を探っていききたいと思えます。

歴史的建物サマリア館の補修に向けて

事業の場である本館（築54年）とサマリア館（築86年）を維持していくための資金的備え（会館基金）が不十分であり、財政的備えに努めたいと思えます。特にサマリア館の補修を実現するため、100周年記念募金の一環としてクラウドファンディングを予定しています。

100周年に向けて

来年に設立100周年を迎えるにあたり「女性の視点から社会の変革をめざした歴史を未来へつなぐ」ために、京都YWCAの事業の意義を広く伝えつつ、2021年4月より開始した100周年記念募金（目標額1千万円）を推進してまいります。

2022年度も皆さまのご協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

【事業報告】

I. 多世代・多文化ふれあいコミュニティづくりに向けた女性と子どものエンパワメント事業

1. 子どものエンパワメント事業

■多文化共生をテーマにした多文化共育プログラム（保育を中心に）

多文化保育出張事業（希望の家カトリック保育園）

2021年度、ベトナムの出身の講師と「多文化共生保育」を実行予定だったが新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2022年度に見送った。

【実施支援内容】（延べ人数）

実施日	プログラム名	講師・ゲスト	参加者数(延べ)	場所
11/15(対面), 12/2(オンライン)	多文化保育プログラム企画会	LE KIM YEN	4	京都 YWCA
12/6	多文化保育プログラム紹介および講師会	LE KIM YEN	5	希望の家カトリック保育園

■多文化ルーツの子ども支援(学習支援・社会経験)※

生活困難を抱える家庭に育つ多文化ルーツの子どもたちの学力を支えるために、学習会および進学支援を行った。避難生活中の子どもたちを含めてさまざまなルーツを持つ20人以上の子どもたちの中、10人が月曜日は京都YWCAで、金曜日は醍醐地域での学習会に参加している。母親向けの教育相談、進学・就学の際に必要な支援（説明会、懇談会、見学など）、長期休暇中の集中学習会、さらに、子どもたちの豊かな社会経験のためにキャンプ、子どもフェスティバル、動物園・植物園訪問なども実施した。また自転車をもっていない子どもたちのために自転車購入支援金を募った。遠距離の親子にはオンラインで支援を行った。



多文化子どものクリスマス Gathering

学習支援実績数 83件（子ども 284人、支援者 275人、保護者 34人、訪問 16、教育機関同行 15）

◆参加者：高校生、中学生、小学生の子ども 27名（フィリピンルーツ 12名、中国ルーツ 8名、アフリカ・ロシアルーツ各 2名、ネパール・インドネシア・台湾ルーツ各 1名、他 1）

◆支援者：29名（大学・院生 12名、講師 7名、食事提供ボランティア 5名、社会参加プログラムボランティア 5名）

【実施支援内容】

・学習支援プログラム

(延べ人数)

内容	回数	子ども	保護者	支援者	通訳	備考
毎週月曜日 16:00～19:00	39	204	11	202	-	関連機関からの見学 2回
毎週金曜日 15:00～18:00	21	39	12	47		*食事提供
不定期(個別およびグループ学習支援)	19	19		14	-	
夏休み集中学習会(2021年8月)	4	22		12	-	*食事提供

・地域と連携した移住女性一人親と子ども教育支援 (延べ人数)

内容	回数	子ども	保護者	支援者	通訳	備考
教育面談(保護者相談、家庭訪問)	15	16	11	16	5	
高校進学支援(説明、見学、入試同行など)	4	4	0	4		
教育機関連携(保護者及び協議会)	3		3		3	学校 8 名

・社会経験プログラム (参加者数)

内容	日程	子ども	保護者	支援者	通訳	備考
One キャンプ参加(神戸 YMCA 連携)	7/28 ~ 31	10		5		引率ボランティア 4 名
リフレッシュお出かけプログラム 「多文化経験」@KOKOKA (オープン Day) 岡崎公園	11/3	9	1	5	1	
クリスマス、年末年始「Gathering」	12/27	8	2	11	1	関係者・見学(伴走支援) 各 2 名 絵本読み語り 2 名
*春休み多文化経験プログラム 京都朝鮮中高級学校美術部展示会	3/28	6	1	6	-	研修 1 名

*食事提供支援 学習支援(金曜学習・夏休み含めて) 17 回 厨房担当支援者 30 名(延べ)

*お祝い金(各 5 万円) 高校進学 2 人、就学 1 人、自転車購入(継続中)2 人

※本支援活動の一部は以下の団体から助成をいただき実施された。

- ・三菱財団×中央共同募金会 ~新型コロナウイルス感染下において困窮する人々を支援する~ 外国にルーツがある人々への支援活動応援助成 (2020 年 3 月~2021 年 9 月)
- ・日本民間公益活動連携機構 (JANPIA)「外国人と共に暮らし支えあう地域社会の形成 ~支え合いを豊かさにつなげるまちづくり~」(2021 年 6 月~2022 年 2 月) ※資金分配団体「日本都市計画家協会 (JSURP)」、「公害地域再生センター (あおぞら財団)」
- ・中央共同募金会 ~新型コロナウイルス感染下において困窮する人々を支援する~外国にルーツがある人々への支援活動応援助成第 2 回(2021 年 10 月~2022 年 9 月)

2. 女性のエンパワメント事業

(1) 移住女性自立支援

●日本語・就業カススキルアップ

配偶者等からの暴力被害などで避難生活中の母子家庭が孤立しないように訪問・オンラインでの相談を受けた。就職および就業カススキルアップのためにオンラインで日本語学習を支援した。対面の場合、子連れの移住女性が日本学習支援を受ける間に別室で多文化ルーツ幼児の保育サポートを行った。

時代の変化に伴い今後の外国人支援体制の変革を検討し目指す社会に向かう進歩を続けている。30年間の「外国人支援」体制を総括するために、事業の課題、事業構造の発展的整理と発展、資金調達の面について、収益性を持つ持続可能な組織への移行に関する協議などを、外部からの客観的な視点を持つ方の参加も求めて進めている。資金調達の新たな仕組みの可能性を認識することができた。

【実施支援内容】

・日本語支援プログラム

(延べ人数)

内容	回数	参加者	支援者	通訳	備考
毎週火曜日 10:30～14:30	38	54	38		対面
毎週火曜日 13:00～16:30	57	57	57		オンライン
保育サポート	3	5	6		
就職支援実施	31	31	31	10	移住女性 10 名(就職 3 人、公営住宅入居 2 世帯)

・地域関係コミュニティ構築関連会

内容	回数	参加者 (外)	参加者 (内)	通訳	備考
山科・醍醐地域コミュニティづくりアドバイザーおよび地域関係ミーティング@山科青少年センター、京都市醍醐いきいき市民活動センター、京都市だいが学園	5	19	10		
京都市地域自治推進室との意見交換会 「地域コミュニティにおける外国籍市民向けのニーズ等について」@京都 YWCA	1	3	3		
フィリピン移住女性グループ連携会	4	11	6		
中国ルーツ移住女性会(子育て)@京都 YWCA	6	18	6	2	

・持続可能な組織整備のための説明会、ワークショップ、協議会など

内容	回数	参加者 (外)	参加者 (内)	備考
持続可能な「資金調達、事業ごとの課題、事業構造の整理・発展」ワークショップ(オンライン)	5	4	33	コングラント
京都 YWCA における外国人支援の今後について「事業ごとの課題、事業構造の整理・発展、資金調達」2/19(ハイブリッド式)	1	3	30	パネル(外部 3 名・内部 2 名)

●臨時緊急生活支援

- ・コロナ感染が長期化する中、生活困窮家庭に予防衛生用品・出産準備品・衣類・寝具・食料・生理用品などを定期的に発送、学習のための教材・タブレットの貸出および配布も行った。またクリスマス・年末年始を暖かく過ごせるようにプレゼントを送った。

【実施支援内容】・発送・配達回数 67、対象者 146 人(家族世帯数 62、子ども 80)、タブレット配布 4 件
(延べ人数)

内容	回数	世帯	子ども	大人	備考
定期的発送	27	26	29	25	
クリスマスプレゼント およびケーキ	13	13	16	15	本支援活動の一部は「Amazon みんなで応援プログラム サンタクロース企画」の支援をいただき実施された。
年末年始発送	19	19	23	20	
パソコン・タブレット貸出	8	4	12	6	パソコン1台、タブレット4台/ケースなど

※本支援活動の一部は以下の団体から助成をいただき実施された。

- ・三菱財団×中央共同募金会 ～新型コロナウイルス感染下において困窮する人々を支援する～ 外国にルーツがある人々への支援活動応援助成 (2020年3月～2021年9月)
- ・日本民間公益活動連携機構 (JANPIA) 「外国人と共に暮らし支えあう地域社会の形成 ～支え合いを豊かさにつなげるまちづくり～」(2021年6月～2022年2月) ※資金分配団体「日本都市計画家協会 (JSURP)」、「公害地域再生センター (あおぞら財団)」
- ・中央共同募金会 ～新型コロナウイルス感染下において困窮する人々を支援する～外国にルーツがある人々への支援活動応援助成第2回(2021年10月～2022年9月)

(2) 親・子育て支援活動

昨年度から始まった保育園での絵本の読み語りや「リズム遊び」も園児や保育者に親しんでもらえるようになった。地域子育てステーションとしての「親子ライブラリー」や「親と子のリズムあそび」も、コロナ禍において中止せざるを得ないときもあったが、保育園をベースに続けることができた。

親子ライブラリーの活動 20 周年を記念して、創作ユニット tupera tupera による「絵本ライブ」をこどもみらい館で開催することができた。コロナ感染者数が増大する中、実施できるのか不安があったが、ちょうど感染者数が減少した時期に重なり、人数制限や消毒、検温などの対策を立てて実施に踏み切った。この状況下としては多くの人々が参加し、絵本の楽しさを満喫していただいた。親子ライブラリースタッフが作成してきた作品や保育園児の絵や工作をうららかふえに展示した「かおてん」と合わせて、よい 20 周年の記念となった。

11 月には昨年同様「京都 YWCA 子どもフェスタ 2021」は規模を縮小、参加人数も制限して開催した。他の委員会の協力も得て提供した多様なプログラムを、保育園の園児の親子も含め、参加してくれた親子に楽しんでもらえたのではないかと思います。子どもフェスタでは、子ども服等のリサイクルを行ったが、園児の保護者も衣類やおもちゃを提供してくれた。また、保育園に係る人たちにもワークショップやお惣菜、お菓子作りなどをしてもらった。

「家庭で実践できるやさしいマクロビオティック」も幾度か中止になりつつも、料理の実践講習に加えて座学も実施することができた。「子育ておはなしかい」「おやのたんわしつ」も今年度も開催することが

できた。これらの講座などに、地域の親子やリピーターに加えて、保育園の保護者にも参加してもらえた。

小学生対象の「えいごであそぼう」は、長期休暇中の「ガジュマルの樹」(今年度は行わず)と合わせて、将来的には保育園卒園児の受け皿としての役割も果たしていきたい。

■2021年度実施プログラム

実施日	プログラム名	講師・ゲスト	参加者数(延べ) 対象者	備考
6/30, 7/14, 10/7 7/10*	「家庭で実践できるやさしいマクロビオティック」料理講習	笹浪泉	16名	キュービーみらいたまご財団の助成事業(3カ年計画の2年目) *「子育ておはなし会」として座学
5月から毎週月曜日	保育園「リズム遊び」	赤尾陽子	0(12月から), 1, 2歳児	
毎月第3木曜日 7/15,10/21,11/18, 12/16,1/20,3/17	地域子育てステーション「リズム遊び」	赤尾陽子	地域の親子 11組	
4/8	親と子のリズム遊び特別バージョン	赤尾陽子	地域の親子2組	
4月第3, 4木曜日、以降毎月第1, 3木曜日、 12/23*	保育園「絵本読み語り」	親子ライブラリー	全園児	スタッフ延べ58名 *乳児クリスマス会
毎月第3木曜日 4/15, 7/15, 10/21, 11/18, 1/20	地域子育てステーション「親子ライブラリー」	親子ライブラリー	地域の親子 14名	スタッフ18名
毎月第1木曜日 (4, 5月は第2木曜日)	絵本かふえ	親子ライブラリー	302名	「うららかふえ」にてランチ提供
4/18	京都市中央図書館「子ども読書の日」記念事業「お楽しみ会」	親子ライブラリー	地域の親子 15名	スタッフ7名
12/27	多文化ルーツの子どもクリスマス会	親子ライブラリー	多文化ルーツの子ども他20名	多文化共生委員会 主催に出演協力 スタッフ2名
9/4, 12/11	「子育ておはなし会」	室紀子	12名	
2/8	「おやのだんわしつ」	室紀子	2名	
10/7~16	京都YWCA「かおてん」	親子ライブラリー	地域と保育園の親子 90名	うららかふえにて スタッフ12名
10/17	「tupera tupera 絵本ライブ」	tupera tupera 亀山達矢 中川敦子	地域と保育園の親子 106名	*親子ライブラリー 20周年記念事業として。 *スタッフ17名参加 *こどもみらい館にて
11/20	子どもフェスタ		地域と保育園の親子 21組 58名	*スタッフ29名 京都YWCA内の各委員会、保育園に関わる人達
通年(金曜日)	えいごであそぼう	ドナルド・レイノルド先生	小2クラス9名 小5クラス2名	



ライブラリー20周年【絵本ライブ】



こどもフェスタ 2021



(3) 自立援助ホーム「カルーナ」

自立援助ホーム「カルーナ」では社会的養護を必要とする概ね 15 歳から 20 歳の女性に安全な居場所を提供し、生活、学習、就労の支援をおこなっている。昨年に続き今年度も、利用者や退所者の暮らしに新型コロナウイルス感染症の影響が及んだ。毎日、利用者の検温・体調管理を実施し、希望者には早期にワクチン接種を行い、さらに職員の PCR 検査を定期的実施するなど、共同生活の中でクラスター感染が起きないように細心の注意を払った。

自立援助ホームの全国的な傾向に同じく、高校生（全日制、通信制、定時制）の利用が多く、同じメンバーが比較的長期間入居しており、学習支援や進路相談に対応する機会が増えた。大学に合格した利用者 1 名も、奨学金や「カルーナ教育奨励基金」を利用して、通学、アルバイト、課題提出に励んだ。年間を通して 2 名の入退居があったが、ほぼ 6 名定員いっぱいでの生活が継続した。また、ホーム開設当時から入居者の支援を担当してきた職員が昨年度末をもって退職し、新たに非常勤職員 2 名が加わり支援体制も変化した。

「カルーナ」の利用者や退所者の就労支援については、社会経験を豊かにし収入源にもなるよう、京都府若者等就職支援推進事業の一環として、「うららかふえ」での仕事や、惣菜やお菓子の製造販売など京都 YWCA 内でも就労機会を提供した。

新たな試みとして、ユース委員会との共同プログラムを実施した。オンラインでの気楽なおしゃべりのほか、ワークショップに参加したり、ファンレイジングのためオンラインに出品する作業を一緒にするなど、同世代との交わりによりお互いの世界が広がることが期待される。

また、退所者が昨年『あっち側の彼女、こっち側の私』という本を共著で出版したことを記念して、コロナ禍の中、オンラインと会場を結んでトークイベントを開催した。参加した多くの支援者が二人の著者と共に考える有意義なひと時となった。一方、カルーナニュースの発行や、教会での活動紹介など広報活動にも努め、後援会費や寄付によって、教育奨励基金を2名に授与したほか、カルーナの住環境を整えることができた。

次年度は、数年来の課題である退所者のアフターケアと居場所づくりに積極的に取り組むため、生きづらさを抱えた若い女性の居場所「YここKitchen」の始動に向けて、準備を進めている。引き続きさらなる、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

●主催プログラム

実施日	プログラム内容	講師/ゲスト	参加者
12/30	チャレンジ体験プログラム ・リラックスタイム（月1回 計12回） ・カウンセリング（個別） ・美BODY（身体ほぐし）計6回 ・餅作り	辻野恵子 竹之下雅代* 木村こずえ	(延べ) 30名 28名 24名 7名
9/25(土)	メイクアップとマナーの講演会	京都市ユースサー ビス協会 協力	5名
8/29, 9/12	ユース委員会メンバーとの交流 オンライントーク		9名
11/27(土)	一人暮らし（就労）に向けてのセミナー（ユース委員会主催）	熊野沙織**	9名
1/15(土)	新年会、成人のお祝い会&ホームカミングデイ		17名
1/29(土) 2/9(水)	「あっち側の彼女、こっち側の私」出版記念トークイベント 振り返り会（オンライン）	結生・小坂綾子	56名 5名
	カルーナかふえ 計20回		60名
	カルーナミーティング 毎月2回 計24回		
	カルーナ運営委員会 計6回		
2/26, 3/12 , 16, 26 , 30	YここKitchen トライアル 計5回 3/12 映画「SNS少女たちの10日間」上映会&おしゃべり タイム（ユース委員会企画）		29名

*竹之下雅代（ウィメンズカウンセリング京都）

**熊野沙織（京都若者サポートステーション）



メイクアップとマナー講座



新年会&ホームカミング

●他団体主催プログラム

日時	プログラム内容	講師/ゲスト	参加者
7/26～28・28～31	いちえんキャンプ（神戸 YMCA 主催）		4名
7/25	桃山キリスト教教会の婦人会にて 「カルーナの報告」	山本知恵	

(4) 若い女性のエンパワメント

ユース主体の活動の促進を目指し、ユース委員会を新設し、主な活動としては、ユースが安心して関心事項を語るができるオンライン交流会（「よるカフェ」）、世界 YWCA がユースエンパワメントを目的に作成した『若い女性の変革をもたらすリーダーシップのためのグローバル・ライズアップ（Rise Up）・ガイド』および性と生殖に関する健康と権利（SRHR）・心の健康に関する若い女性のアドボカシー・ツールキット「My Body My Mind」の内容に基づく中高生を対象としたワークショップ、カルーナ利用者・元利用者と交流会、平和について考える会等を企画・実施した。

世界 YWCA が作成したガイド等の活用にあたっては、他地域の YWCA のユース等と事前勉強会を実施するなどし、全国の YWCA のネットワークを活かし、ユースエンパワメントの推進に向けた活動を展開した。また中高生を対象としたワークショップの実施にあたっては、地域で活動する他のユース団体と協働することにより、同じ地域で活動するユース団体間の交流および活動促進を図った。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、企画したプログラムが中止・延期となる場合もあったが、オンライン会議ツールを活用するなどし、活動の継続に向け、臨機応変に対応した。

■2021 年度開催プログラム

●よるカフェ（オンライン）

日付	テーマ	参加者
4/25	多様な働き方について	11人
5/23	メンタルヘルスについて	10人
6/27	最近の関心事項（書籍、映画、音楽、SNS 等）	9人
7/11	政治・政治参加について	6人

●Rise-Up ワークショップ

日付	テーマ	参加者
◆北海道・東北地区中高 Y カンファレンス		
8/4	北海道・東北地区中高 Y カンファレンス	11人
◆中高 Y 出前 WS		
平安女学院中学校・高校（全3回（うち2回キャンセル））		
10/26	気候変動×ジェンダー（1回目）	6人
11/16	気候変動×ジェンダー（2回目）	キャンセル
1/18	私たちが行動を起こすことの大切さキャンセル	キャンセル
同志社女子中学校・高校（全2回、オンライン）		

11/5	気候変動×ジェンダー（1回目）	4人
1/28	私たちが行動を起こすことの大切さ	3人
全国のYWCA対象（全2回、オンライン）		
3/21	気候変動とジェンダー	15人
3/30	私たちが行動を起こすことの大切さ	10人

●平和について考える会

《活動実績》		
日付	テーマ	参加者
5/21	「平和」って？	6人
11/3	「慰安婦」問題とは何か	8人
11/13	「女性たちの戦争と平和資料館（WAM）」視察	5人

●カルーナとのコラボプログラム

《活動実績》（※事前打合せ2回）		
日付	テーマ	参加者
8/29	バイト・仕事、SNS上の人間関係等について	4人
9/12	日常生活について	5人
11/27	京都若者サポートステーションによるWS（「働く」ことについて）	9人

●『My Body My Mind』勉強会

《活動実績》		
日付	テーマ	参加者
9/9	My Body My Mind Module 1-3	15人
9/19	My Body My Mind Module 4-6	16人
10/3	My Body My Mind Module 4-6	21人



中高 Y（平安女学院）出前ワークショップ

(5) シニア女性とともに

高齢女性用の住宅（サービス付き高齢者向け住宅）居住者に、多様な人々との出会いの場を提供し、日常生活が社会とつながるものになるように支援している。長引く新型コロナウイルスのため、外出を控える方や、体調を崩されたり、それまでの習い事をやめたりした方もおられたが、その中で入居者から「サーームの人で定期的集まっておしゃべりしたい」という声があり、週1回の定期的なおしゃべり会が始まった。自由参加であるが、入居者同士のつながりが強くなったと感じられる。

2020年度から引き続き、ふれあいの居場所事業部委員会の体操教室「いきいきタイム」や「ちくちくかふ

え)、会員のグループ活動である「聖書を読む会」「エコ・ド・Y」、会員有志による「書道教室」に参加されている方々もあり、うららかふえのランチはいつも好評で、入居者に人々との出会いの場として欠かせないものになっている。

コロナ禍がおさまれば、年数回のお出かけプログラムなどを再開し、誕生日会やクリスマス会などを自主的に行うことのできるサポート体制を検討したい。

●開催プログラム

日時	プログラム名	講師	参加者
8/28	みんなでおしゃべり	なし	入居者 5 名、会員 3 名、職員 2 名
12/11	クリスマスリースをつくる会	宮川信子さん	入居者 5 名、会員 1 名、職員 2 名



クリスマスリースづくりの風景

3. 外国籍市民のエンパワメント事業

(1) 多言語相談事業「APT (Asian People Together)」

コロナ禍の中でも一度も中止せずに、電話・来所・訪問・同行など相談事業を続けている。母語支援の強みを生かして生活困窮に陥った方を行政支援につなげ、通訳者と同行して現場での支援を行うなど、より充実した支援が行えたと思われる。地域・行政との連携と基に一年を通して、京都市各区役所の子どもはぐくみ室からの通訳依頼に応じ、京都市町村外国人相談窓口出張および研修に協力した。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響が大きく活動にも影響した。何よりも相談者の生活に新型コロナウイルス感染症の影響が多方面で出ており、今までとは違った対応の仕方が必要だった。

- 2021年度相談対応回数：延べ4,287件（電話2088、メール579、来所207、同行184、訪問66、FAX48、手紙38、SNS1077）、母語支援171件（英語、フィリピン語、中国語、ベトナム語、ネパール語、タイ語、ポルトガル語、ペルシャ語、韓国語）

●活動記録（*はWeb会議）

- ・APT全体ミーティング* 4/17、5/15、6/19、7/17、9/25、10/15、11/27、12/18、1/15、2/26、3/19
- ・ケース協議* 4/17、5/15、6/19、7/17、9/25、10/15、11/27、12/18、1/15、2/26、3/19
- ・京都YWCA多文化共生委員会会議* 5/8、7/17、10/16、12/18、1/15、3/19
- ・京都市町村出張外国人相談窓口研修@八幡 8/13、9/10、10/8、11/12
- ・京都市町村出張外国人相談窓口研修@京田辺 8/27、9/17、10/15、11/19、12/26

- ・京都市市町村出張外国人相談窓口研修@南丹市 12/8
- ・配偶者等からの暴力に関するネットワーク 京都会議（代表者会議） 11/12
- ・「移住連 全国ワークショップ 2021」 6/12～/13
- ・生活医療ネット関西会議* 5/13、9/30、1/20
- ・きょうと多文化支援ネットワーク定例会* 5/1
- ・RINK 第 31 回総会&記念講演 12/11
- ・京都犯罪被害者支援センター研修講師派遣 1/8
- ・講演「外国人女性の妊娠・出産の現状と課題」～技能実習生リンさんのケースを中心に～ 1/8
- ・「外国人と共に支え合う地域社会形成」交流セミナーJANPIA 事業報告*1/29
- ・離婚相談ホットライン(リコン・アラート+大阪弁護士会主催) 1/19

(2) にほんご学習支援事業「洛楽」

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、受講生の数は昨年度末から横ばいの状況が続いていたが、緊急事態宣言解除後は対面授業を再開し、受講希望者も増えつつある。緊急事態宣言発令中は対面授業を休講したが、5月は6クラス、8～9月は8クラスがオンラインで授業を行った。オンライン授業実施のために、洛楽講師や京都 Rings 講師による Zoom 操作研修会(事前練習会含む)(6/4・8/26・8/31・9/1)を開催し、講師間相互の情報交換や、授業研鑽に努めた。

今後とも講師各自が授業の工夫改善を行いつつ、緊急事態宣言下など対面授業が難しい場合は、オンライン授業 (Zoom・LINE 等) やハイブリッド式授業(対面+オンライン)を取り入れながら、授業を絶やすことなく、できる限り受講生達が学習を継続していけるよう講師間で確認し合った。

受講生向けにコロナ感染関連情報および相談窓口に関する情報の発信を行った。京都府内日本語教室のネットワークである「京都にほんご Rings」に継続して加盟し、多文化共生のための情報交換や活動を行った。

●教室数：延べ 494 クラス(対面：325、Zoom：163、ハイブリッド：6)

受講生数：延べ 1006 人

学習支援者数：延べ 494 人

○移住女性自立支援 2 クラス(対面) 対面 21 回 (延べ 62 人)

○外国ルーツ子ども日本語支援 1 クラス (対面) 4 回 (延べ 4 人)



日本語教室洛楽の対面授業

※本支援活動の一部は以下の団体から助成をいただき実施された。

- ・三菱財団×中央共同募金会 ～新型コロナウイルス感染下において困窮する人々を支援する～ 外国にルーツがある人々への支援活動応援助成 (2020年3月～2021年9月)
- ・日本民間公益活動連携機構 (JANPIA) 「外国人と共に暮らし支えあう地域社会の形成 ～支え合いを豊かさにつなげるまちづくり～」(2021年6月～2022年2月) ※資金分配団体「日本都市計画家協会 (JSURP)」、「公害地域再生センター (あおぞら財団)」
- ・中央共同募金会 ～新型コロナウイルス感染下において困窮する人々を支援する～外国にルーツがある人々への支援活動応援助成第2回(2021年10月～2022年9月)

(3) 留学生支援「すけっと」

新型コロナウイルスの影響で留学生の来日予定も大幅に遅れ、12月に開始した。

- ・12/18 オリエンテーション・歓迎交流会を対面で実施。

(参加者；留学生 5 名、すけっと 3 名、多文化委員 2 名、職員 1 名)

4. 多世代・多文化による交流と協働の「ふれあいの居場所」事業を通じたボランティア養成事業

(1) 平和・環境活動

2021 年度は昨年に引き続き新型コロナウイルス感染が収束しない状況で、さまざまな社会背景のあるメンバーでできることを考え、活動が制限される中、ハイブリッドやオンラインで展開する活動を行った。

保養プログラムの実施は延期となった。防災関係の活動もワンデイキャンプは実施しなかった。8 月には京都の FFF (Fridays For Future Kyoto) の学生をゲストに気候変動とシステムチェンジについての学習会を開催。11 月にはこどもフェスティバルで環境エネルギーに関する子ども向けのミニワークショップを実施した。

オンラインでは防災に関する取り組みを「私の防災グッズ」として防災グッズの紹介や今後の計画を、防災士の参加・協力を得て行った。

福島に思いを寄せる取り組みとしては、『こんど、いつ会える？原発事故後の子どもたちと、関西の保養の 10 年』（ほようかんさい編著・石風社）に、2011 年以降取り組んできた被災者支援活動の歩みを執筆した。1 月に「福島の今」をテーマにしたお話を実施。日本 YWCA「カーロふくしま」の職員と、福島在住のお母さんたちに、現在の状況や思いをお聞きし、今後のあり方を考えていくことになった。

平和に関する活動では、毎年京都 YWCA が開催している 2.11 集会を、「沖縄×2.11」として大阪 YWCA の協力を得、沖縄で新基地建設抗議行動を続ける金井創牧師のお話を聞き、オンラインで他の大阪・名古屋・沖縄 YWCA の平和活動報告を共有した。

■主催プログラム

日付	プログラム名	参加人数	講師
7/22	私の防災グッズ (オンライン)	8 名	協力：太田興 (京都 YWCA 会友)
8/21	気候危機のために行動する若者たちの話を聞こう！～私たちの地球の未来のために～ (オンライン&来場)	11 名	Fridays For Future Kyoto
11/21	「子どもフェスタ」(親・子育て支援活動委員会主催) にて環境エネルギーのミニワークショップ (来場)	6 組	
1/28	福島の今を知る (オンライン&来場)	19 名	佐藤純子 (日本 YWCA 職員)、保養プログラムに参加されたことのある母親 2 名
2/20	京都 YWCA 全会集会 2.11 集会「沖縄×2.11」(オンライン&来場)	29 名	金井創 (日本キリスト教団佐敷教会牧師)

■他団体主催プログラム (すべてオンライン)

日付	プログラム名	当委員会からの参加人数	講師
6/10	カーロふくしまおはなし会「東京オリンピックと福島～ドイツからみた日本の混迷を紐解く～」	3 名	アンドレアス・シングラー
12/18	「こんど、いつ会える？」出版記念会	2 名	

(2) ふれあいの居場所事業

ふれあいの「居場所」食堂「うららかふえ」では、ボランティアチームが週 3 回、外部団体「京都府更生保護女性連盟」の委託が月 2 回ランチを担当する体制で、火曜日から土曜日の週 5 日運営した。昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、かふえの営業は 4、5 月は 14 時までの短縮営業とし内部向け（居住者、職員、会員）にランチを提供し、6、7 月は外部からの「ランチ予約」を再開、また 16 時までの営業に戻し、8、9 月は外部からの「ランチ予約」を中止し、14 時までの営業とし、10 月以降、外部からの予約を再開し、16 時までの営業を行った。座席数やボランティアを減らし、アクリル板などの感染防止対策を取りながらの営業は変わらず続けた。

HACCP(Hazard Analysis Critical Control Point=危害要因分析重要管理点)に沿った衛生管理が、2021 年 6 月 1 日より、すべての飲食店に義務化されたことを受け、「一般衛生管理」および「重要管理」計画の作成・実行・記録・確認等、書類整備を行った。

9 月に迎えたうららかふえ開業「7 周年」の記念イベントは、12 月に延期して実施した。クリスマススペシャルランチの提供やポスターなどの展示をし、多くの方に喜んでいただいた。

「子どもフェスタ」「クリスマスコンサート」では京都 YWCA 伝統のお菓子、クッキーを作成販売した。

手仕事やティータイムを楽しむ「ちくちくかふえ」を月 2 回（第 2・4 水曜日）実施し、介護予防体操・講話プログラム「いきいきタイム」は月 1 回（第 3 水曜日）、京都 YWCA の高齢者住宅「サラーム」居住者の方に参加者を限定して、開催した。「Chatting Café」（多文化ルーツの人々を対象におしゃべりを楽しむ場）も月 1 回（第 1 土曜日）始動した。

京都府若者等就職支援推進事業の「認定基礎的就職支援事業者」として、うららかふえで若者と共にかふえ運営をする際、ボランティアメンバーは、よりよい支援をするためにはどうしたらいいのか、また、うららかふえ以外での場においても若者と共に行える各々に適した作業ややり方なども模索し、考慮しながら徐々に進めている。

■主催プログラム

実施期間	プログラム内容（実施日）	講師	参加人数
2021.4. ～2022.3	「ちくちくかふえ」 毎月第二・四水曜日 14:00～16:00 全 15 回（4/14・6/23・7/14・7/28・10/13・10/27・11/10・ 11/24・12/8・12/22・1/12・1/26・2/9・3/9・3/23）		延べ 62 名
2021.4 ～2022.3	「いきいきタイム」 椅子に座って行うストレッチや体操 を中心に、フレイル予防や介護予防を心がける取り組み 原則毎月第三水曜日 14:30～15:30 全 12 回（4/21・ 5/19・6/16・7/21・8/18・9/15・10/20・11/20・12/15・ 1/19・2/16・3/16）	うち 4 回 上京区地域介護予防 推進センター/1 回京 都 YMCA インストラ クター	延べ 63 名*
2021.4 ～2022.3	多文化かふえ「Chatting Café」 原則毎月第 1 土曜日 14:00～16:00 全 9 回（4/3・5/1・6/5・7/3・8/7・10/2・11/6・1/8・2/5）		延べ 59 名

*新型コロナウイルス感染防止策として、サービス付き高齢者住宅居住者に限定した。



ちくちくかふえ（手仕事とおしゃべりの集まり）

いきいきタイム

■ うららかふえ営業

営業日 合計	カフェチーム担当	他委員会等担当	委託	喫茶日（ランチなし）	内部限定
223 日	150 日	48 日	25 日	31 日	25 日

参加者

ボランティア数（延べ）	若者就職等支援推進事業参加者（延べ）	ランチ数（延べ）
620 名	302 名	3067 食



(3) ファンドレイジング

コロナ禍の中、長年続けてきた「ピーターバラカン DJ ライブ」は、今年度も断念せざるを得なかったが、そんな中、聖アグネス教会を会場に「クリスマスコンサート」を開催することができた。末松よしみつ・西谷玲子夫妻および瓦待良さんを迎えて、感染予防への細心の注意をはらいながら、久々の奏者・観客ともに楽しいひと時の交流会でもあった。会場では京都 YWCA で長年作り続けてきたケーキやクッキー、クリスマスシーズンに人気のカード等も販売し、好評であった。

今までの定期的な「スリフトセール」（衣類などを寄付してもらい、収益を社会貢献活動にあてる）開催に代わるものとして、ロビー一角に常設のリユース品販売コーナーを設け、衣類・カバンなどをシーズンごとに入れ替え、行き交う人々にも楽しんでもらった。



クリスマスコンサート

11月21日（日）の「子どもフェスタ」では、子ども服を販売した。

居住者、保育園の保護者、職員などを対象に、少しでも食事づくりの労力の軽減をとのアイデアから数回

の「お惣菜作り」を実施し、ロビーの冷凍庫で保管、販売した。

月1回の「きものリフォーム」は宮川信子さんを講師に、参加者が洋服や小物作りに取り組んだ。参加者が寄贈して下さった手作りのかばん類は、ロビーで販売した。

昨年に引き続き岡山から直送の「新鮮なぶどう」を販売した。また、「第2 あおぞら就労支援事業所」からの申し出を受け、聴覚や言語面で障がいをもつ人たちの手作り品（かばん・ポーチ等）の委託販売をスタートした。

■主催プログラム

日付	プログラム名	参加人数	講師
6/12	惣菜作り： 生姜の佃煮	2	
10/16	惣菜作り： 鶏の唐揚げ	2	
10/28	りんごジャム・アップルパイ作り	2	
11/21	「子どもフェスタ」親・子育て支援活動委員会主催にて子ども服販売	2	
6/12	「うららかふえ」ランチ担当	4	
7/17	「うららかふえ」ランチ担当	4	
9/18	「うららかふえ」ランチ担当	4	
10/16	「うららかふえ」ランチ担当	4	
12/4	「京都 YWCA クリスマスコンサート」出演：末松よしみつ、西谷玲子、瓦待良、クリスマスメッセージ：大岡創司祭（日本聖公会聖アグネス教会）	95 (来場数) 10 (スタッフ)	
3/19	「うららかふえ」ランチ担当	4	
6/22, 7/27, 9/28, 10/26 11/30, 3/22	手づくりひろば「きものリフォーム」	延べ 26 人	宮川信子

●ロビーショップチーム



ロビーショップ 夏みかん

本館1階の“ロビーショップ夏みかん”では、会員の選んだYWCAならではのこだわり商品を仕入れ販売している。半世紀前から仕入れているお菓子の材料や人気の外国産チーズ、ロビーの陳列台の上には、フェアトレードのコーヒー、紅茶、チョコレートなど、その他にも釧路YWCAの昆布や定番の呉YWCAひじきといった海藻類など、乾燥豆多種、化学調味料無添加にこだわっただし（和、洋、中華）類、シリアのアレッポの石鹼などの商品が多数陳列販売されている。3月から期間限定で、中庭の夏みかんを利用したのマーマレードを会員の手づくりで販売している。

(4) ミッション推進活動

運営委員会は京都YWCAにおける「多世代・多文化による交流と協働のふれあいの『居場所』事業」を通じたボランティア養成事業の総括部門である。

2021年度はYWCAの基盤と目的、日本YWCAのビジョンに基づき、京都YWCAの「私たちが目指すもの(P2参照)」に沿って活動した。

当運営委員会の役割は、現活動分野別の委員会間の連絡・調整・課題協議・情報共有のみならず、会員活動組織のあり方の検討など多岐にわたった。

ボランティア会員一人ひとりの組織理解とスキルアップ、組織としての持続可能性が必要であるとの認識を持って継続的に検討・模索し、新たな取り組みを行った。近年の会員の高齢化や運営委員の担い手の減少を踏まえ、会員活動のありかたを検討した。定期会員集会では、「会員活動や今後の運営について」の発題と意見交換を行った。また、今年度は「ユース委員会」を新設し、オンラインでのユースの活動が活発に行われ、プログラムやワークショップが開催された。

ミッション推進のためのボランティア会員活動を統括する当運営委員会として以下を実施した。

① 全会集会の主催

YWCAの基盤や目的が反映される集会を、京都YWCAで活動するボランティア会員全員で取り組むものとして運営委員会主催で実施した。(いくつかの企画担当を各部委員会へ委嘱した。後述プログラムの表参照)

- 1) イースター集会&世界会員日集会
- 2) YMCA/YWCA 合同祈祷週
- 3) クリスマス集会
- 4) 2.11 集会
- 5) 第100回定期会員集会

② 日本YWCAとの連携事業

日本YWCAとの連携は、当委員会の職責の一つである。本年度は、日本YWCA主催の講座や研修に運営委員が参加した。

*4/24 日本YWCA加盟地域YWCA会長会への会長出席

*5/22 日本YWCA加盟地域YWAC中央委員会に会長派遣

*【若い女性のエンパワメント事業を推進するファシリテーター養成講座】

(ユースの支援者支援講座)全5回：10月～2月の毎月第2土曜日 16:30～18:30 京都の参加者数

- ・10/9 「なぜ若い女性のリーダーシップを養成するのか？」 参加者：1名
- ・11/13 「若い女性をエンパワメントするとは」 参加者：1名
- ・12/11 「若い女性がリーダーになるために必要なこと (セーフ・スペース1)」 参加者：1名
- ・1/8 「若い女性がリーダーになるために必要なこと (セーフ・スペース2)」 参加者：4名
- ・2/12 「ファシリテーション・グループワーク」 参加者：2名

*【運営委員研修】 全2回 1/23(日) 3/21(月・祝) 14:00～16:30

グループごとに各地域YWCAの「運営委員会」の仕組み、やり方、研修などを紹介しあい、お互いから学びあうワークショップ。

- ・1/23(日)：東京、名古屋、京都、福岡と合同 参加者：32名(京都：9名)
- ・3/21(月・祝)：神戸、大阪、札幌、横浜、函館を含む9市との合同 参加者：59名(京都：8名)

③ 日本YWCAの地域YWCA連携事業

本年度は、大阪・神戸・名古屋YWCAと共に四市で取り組む地域YWCAを主体とした活動（Local Action 以下LA）1期（2017～2018年）・2期（2019～2020年）を終えて、タスク①では、LAのフォローアップとして四市YWCA合同の枠組みで、キリスト教基盤研修を実施した。タスク②としてのユース育成チームは、オンラインを活用したユースエンパワメントの活動が活発となり、今年度は「ユース委員会」としてスタートした。

●タスク①

*キリスト教基盤研修 全3回

- ・4/17(土)：増田琴さん（経堂緑岡教会牧師）「イースター集会&世界会員日集会」 参加者：41名
- ・8/6(金)：平良愛香さん（川和教会牧師）平良さんのお話、グループトーク、質疑応答
参加者：23名
- ・2/12(土)：浅野献一さん（室町教会牧師） 参加者：13名

④ 活動グループ連絡会（7/15、11/26、3/11に実施）

京都YWCAを拠点として活動するグループに対して、年に3回、各グループの状況把握や情報共有のために「連絡会」を持っている。今年度は読書会（休止）を除く6グループの活動が行われた。

年度前半の4月～9月迄は、コロナ禍で緊急事態宣言中は活動を中止するグループやオンラインで対応したグループもあったが、緊急事態宣言明けの10月からは、対面で感染対策をしっかりと行い活動した。年明けの1月～2月は、再度の新型コロナウイルス感染症者の増加に伴い、やむなく休止あるいは、オンラインに移行したグループもあった。3月には、おおむね対面での活動を行った。

読書会およびビーンズは諸事情により、今年度で活動を閉じることとなった。

●「エコ・ド・Y」 シルバーコーラス

毎月第1・第3火曜日開催 開催数：9回 参加者数：延べ123名

●「シャローム」

・毎月第2・第4火曜日：ストレッチ 開催数：17回 参加者数：延べ74名

・月1回月曜日：ウォーキング 開催数：7回 参加者数：延べ16名

・月1回第3水曜日：ピアカウンセリングによるグループワーク「しゃべり場」
開催数：8回 参加者数：延べ9名

・月1回勉強会 開催数：9回 参加者数：延べ27名

・月1回ミーティング 開催数：9回 参加者数：延べ27名

●「聖書に親しむ会」（2グループ） 講師と共に聖書を学び、キリスト教への理解を深める。

・毎月第2金曜日（講師：入順子さん） 開催数：2回 参加者数：延べ17名

・月1回曜日不定（講師：須賀工さん） 開催数：6回 参加者数：延べ29名

●「ビーンズ」パッチワークの会

毎月第1・第3水曜日 開催数：8回 参加者数：延べ25名

●「手話サークル」ろう者の講師と手話通訳者と共に手話に挑戦

毎月第4土曜日 開催数：12回 参加者数：延べ132名

⑤ その他。

*会員ニュース発行 4月～6月および9月と3月を除く、年7回発行。

*創立100周年記念実行委員会（4/10、6/19、9/4、11/6、1/15）

*募金の取り組み（京都 100 周年記念募金・世界 YWCA 総会派遣募金 古本市(2022 年 1/8 ～3/12)、食品販売、オンライン販売(メルカリ等)を、目標額を立て実施。

◎主催プログラム

*参加者は、Zoom、You Tube, 会場参加の合計

開催日	プログラム名	ゲスト他	参加者
4/17(土)	イースター集会&世界会員日集会 「キリスト教基盤である YWCA を理解する」 (LA のフォローアップ四市(神戸・大阪・京都・名古屋)合同の枠組みとして) *YWCA オリエンテーション (四市 YWCA の会館紹介、2021 年度活動紹介) *イースターメッセージ *グループトーク	増田琴さん(経堂緑岡教会牧師) @オンライン 参加者: 四市 YWCA 会員(運営委員、LA メンバーを中心に)	41 名
11/19(金)	YMCA/YWCA 合同祈禱週集会 「こわれたものからの美しさー美しさとは他者に仕えることにある」 メッセージ:「東九条こども食堂の試みから」	伯基(ほ・ぺっき)さん (在日大韓基督教京都南部教会 牧師)	24 名
12/4(土)	クリスマス集会 *クリスマスメッセージ *クリスマスコンサート 会場: 日本聖公会 聖アグネス教会	大岡創司祭 (日本聖公会 聖アグネス教会) 末松よしみつさん、西谷玲子さん、瓦侍良さん 担当: ファンドレイジング委員会	95 名
2/20(日)	2.11 集会 「沖縄×2.11」	金井 創さん(日本キリスト教団佐敷教会牧師) 担当: 平和・環境活動委員会 協力: 大阪 YWCA	29 名
3/5(土)	第 100 回定期会員集会 第 1 部「会員(活動)とは? 今後の運営はどうなるのか」 第 2 部「100 周年記念事業をどう進めるか」	・浅野献一さん(室町教会牧師) ・保育園ホールでの開催 ・新型コロナウイルス感染予防のため、来館とオンラインを併用して実施。	40 名

◎他団体協力

協力形態	日時	プログラム・内容	主催
後援	4/9	チャリティウォークソン	京都 JOCS
後援	10/10	第 11 回エイズ文化フォーラム in 京都	同運営委員会
共催	3/20・27	ウクライナへの緊急支援の街頭募金活動	京都 YMCA・YWCA 合同

(5) 100 周年記念プログラム

女性(ボランティア)たちが自立的な生き方をめざして活動してきた歴史を振り返り、それを未来につなげていくために、昨年より 100 周年記念実行委員会を立ち上げている。はほぼ隔月に開催して、4つのチー

ム（イベント、式典、記念誌、募金）から出た計画についての協議と進捗状況の確認を行った。4月より100周年記念募金（目標1000万円）を開始し、募金趣意書の配布に努めている。いただいたご寄付は、次世代育成、保育園環境向上、サマリア館補修、歴史の継承（記念誌、アーカイブ化ほか）に充てる予定である。100周年記念式典は2023年9月23日（土曜・祝日）に実施することを決めた。

100年の歴史をこれまでの周年誌に沿って振り返るプログラムを、シリーズで実施している。コロナ禍が続く中、オンラインも併用しながら、第1回目は40周年誌「古都に咲いて40年」をテーマに草創期の歴史をたどった。2回目は75周年誌の時代（1974-1997）の前半を中心に、青少年活動に参加した会員・会友・職員に当時を語ってもらった。3回目は2月19日に75周年誌の後半として、多文化共生活動の原点となった多言語相談事業のAPTや日本語教室「洛楽」の初期の時代を振り返り、当時の思いを共有した。

■2021年度プログラム

- ・5月29日 京都YWCAの100年の歴史を振り返る（1）
40周年誌より 参加18名
- ・10月23日 京都YWCAの100年の歴史を振り返る（2）
75周年誌より（前半） 参加25名
- ・2月19日 京都YWCAの100年の歴史を振り返る（3）
75周年誌より（後半） 参加28名

II. 保育園事業

開園2年目を迎えた京都YWCAあじさい保育園は、「多様性の共存」を大切にし、キリスト教を基盤として、一人一人が愛される存在として命を大切に、共に生きることをめざして保育をおこなった。

2021年度もコロナウィルスがまん延していたため、保護者には行事などに参加してもらうことはできなかったが、さまざまな場面で保護者の協力と理解を得て、ほとんど閉園することなく1年を無事に終えることができた。しかし、緊急事態宣言が発令されたため、地域向け親子のリズム遊び、絵本の読み語り、園庭開放などは中止せざるを得なかった。

昨年度に比べ、園児も職員も「京都YWCAあじさい保育園」の保育に慣れてきた。日々の京都御苑への散歩で培われる自然への親しみや、京都YWCAの従来からの活動との協働によるプログラムなど、あじさい保育園独自の保育を作り出しつつある。また、親・子育て支援活動委員会主催の保育外の行事への参加を呼びかけることで、「あじさい保育園」を豊かなものにはしているのではないだろうか。これらを次年度へと繋げ、さらに発展させていけることを願っている。

園児数：44名（0歳児4名、1歳児10名、2歳児8名、3歳児10名、4歳児8名、5歳児4名）

スタッフ：常勤保育士11名（内園長、主任、副主任各1名）、非常勤保育士等18名、

調理師2名、調理補助1名

*数字はすべて2022年3月末現在

実施日	プログラム内容	講師等	対象
4/1（木）	出合いを喜ぶ会（入園式）		新入園児13名と保護者
4/22, 5月から第1、3木曜日	絵本の読み語り	親子ライブラリー	全園児
4/9から毎週金曜日	幼児向けリズム遊び	有田佳子	3-5歳児

5/18 から毎週火曜日	えいごであそぼう	ダニエリ・バスティ エッラ	4、5 歳児
5/22 から毎週月曜日	乳児向けリズム遊び	赤尾陽子	1、2 歳児
7/15 から毎月第 3 木曜日	地域向けリズム遊び、 絵本の読み語り	赤尾陽子 親子ライブラリー	地域在住乳幼児親子
7/3 (土)	乳児クラス懇談会	各担任	乳児保護者
7/17 (土)	幼児クラス懇談会	各担任	幼児保護者
7/30 (金)	民族楽器ワークショップ	ロビン・ロイド	全園児
9/24 11/26 1/28 (全て金)	多文化体験プログラム(韓国)	パク・ジヨン	3-5 歳児
10/26 (火)	デイキャンプ	八瀬野外保育センタ ー	4、5 歳児
11/4 (木)	収穫を祝う会	浅野献一牧師	全園児
11/5 (金)	収穫を祝うランチ		全園児
12/23 (木)	クリスマス会	親子ライブラリー	乳児
12/24 (金)	クリスマス会	浅野献一牧師	幼児
1/27 (木), 2/21 (月)	卒園記念陶芸作品作り	神門佐千子	5 歳児
2/26 (土)	入園前説明会	担任	2022 年度入園保護者
3/26 (土)	育ちを祝う会(卒園式)	担任	5 歳児と保護者、4 歳児

*親・子育て支援活動委員会主催の各プログラムへの参加呼びかけ

7/10 「家庭でできるやさしいマクロビオティック講演会」、 9/4・12/12 「こそだておはなし会」、
10/7～16 「かおてん」、10/17 「絵本ライブ」、11/21 「子どもフェスタ」、2/8 「おやのだんわしつ」



御所の大銀杏の下で



カブトムシの幼虫の飼育

Ⅲ. その他の事業

(1) サービス付き高齢者向け住宅「サラーム」事業

60 歳以上の女性に安心・安全な住まいと見守り、生活相談サービスを提供している。京都 YWCA は高齢者以外に保育園児から若者、また多様な文化的社会的背景をもつ人々が集う場となっているが、そのような活気ある環境の中での生活がサラームの特徴と言える。

今年度は 8 名(定員)の入居者のうち 3 名が、骨折や脱水症状などがきっかけとなり次々に入院され退居、他の施設へ移られた。そのうち 1 名は 12 月に永眠されたという知らせを受け取った。10 月末に 1 名が入居

され、空き室となった2室も入居が決まり、2022年度初めに満室となる予定である。

京都市から高齢者施設の入居者と従事者へのPCR検査の要請があり、5月の連休明けから10月後半までと2022年1月から2月まで、毎週1回の唾液採取をお願いし、幸いなことにすべて陰性であった。健康上の理由で受けられない方を除いて、7月に2回の接種が完了し、3回目も順次おこなわれた。

(2) その他

① 広報部

年6回奇数月に、京都YWCAの会員や他団体などに機関紙やプログラムのちらしを発送、毎月半ばには、会員や希望者などにメールニュースを発信して、事業や活動を内外に知らせた。機関誌では、広く知ってもらいたい京都YWCAのプログラムや事柄を取り上げるように努めており、寄付の報告やお願いも掲載している。

今年度は2023年に創立100周年を迎えることを念頭に置いたいくつかの企画を実行した。機関紙5月号から「100周年ロゴ」を題字横に載せ、「京都YWCA歴史シリーズ」(毎号)を掲載したが、2022年度も引き続きこのシリーズを実施する予定である。

さまざまな100周年記念グッズが100周年実行委員会で企画されているが、その一環として、約10年ぶりに、Tシャツを制作し販売を開始した。

2020年度に立ち上げられた100周年記念誌チームは、広報部のメンバーとミッション活動推進部門からのメンバーで構成されているが、今年度は、印刷会社や記念誌制作の工程、記念誌の構成を決めた。詳細な内容や執筆者についての話し合いも始まり、過去の機関紙や写真の保存、資料としての詳細な年表の作成なども同時並行しておこなっている。印刷会社の協力を得ながら、2023年7月に完成させる予定である。

また(株)SHINSEKIに依頼していた京都YWCAあじさい保育園のウェブサイト(kyotoywca-ajisai.com)が完成し、京都YWCAのホームページからも見るできるようになった。



新しいTシャツ

② 会館部 (貸室・会館管理)

● 貸室事業

4月および8月の緊急事態宣言を受けて貸室利用を停止したが、宣言解除後は利用者に感染防止ルールを守っていただきながらの貸室を再開した。また、入口に非接触体温計や入館者記名などによる感染防止対策

を行っている。

● 会館管理関係

3月末にWi-Fi環境の改善工事を行った。全館避難訓練を7月と11月に行った。会館周辺と園庭の草抜きの定例化を決めた。

サマリア館（1936年建設）の補修に関連して、京都市は京都の歴史や文化を象徴する建物や庭園を維持・継承を図る「京都を彩る庭園・建物」選定・認定制度を設けている。会館部ではサマリア館をこの中の「選定」に応募した。補修内容に関しては必要度に応じてどこまで補修するか検討を進めている。100周年募金の目的の中にサマリア館補修を掲げているように、100周年の機会にサマリア館補修を実現させたい。

定期利用団体 30団体 単発利用延べ 2件

■ 協力関係一覧

○ 他団体への委員派遣

- ・配偶者等からの暴力に関するネットワーク京都会議：張善花
- ・京都市みやこユニバーサルデザイン審議会委員：神岡茂子
- ・京都市社会福祉審議会委員：井上依子（11月まで）、安藤いづみ（11月より）
- ・（公財）日本語教育センター評議員：山本知恵
- ・（公財）京都YMCA評議員：山本知恵
- ・（公財）日本YWCA評議員：山本知恵
- ・（公財）日本YMCA同盟常任委員：山本知恵
- ・（一財）京都ユースホステル協会評議員：山本知恵
- ・京都市男女共同参画推進懇談会委員：山本知恵
- ・京都多文化地域交流ネットワークサロン事業委員会：神岡茂子
- ・京都市防災会議及び京都市国民保護協議会委員：上村兪巳子
- ・京都市ごみ減量推進会議委員：イエニックふたみ

○ 会員登録・加盟・賛同

（一財）京都府社会保険協会

（一財）京都市食品衛生協会

京都商工会議所

（公財）日本キリスト教海外医療協力会

上京東地区更生保護協会

京都キリスト教協議会

チェルノブイリ福島2020賛同

移住者と連帯する全国ネットワーク（APT）

すべての外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク「RINK」（APT）

京都にほんご Rings (にほんご教室「洛楽」)
パレスチナの平和を考える会 (平和・環境委員会)
憲法9条の会京都憲法集会賛同 (平和・環境委員会)
公財) 京都市環境保全活動推進協議会(平和・環境委員会)
 (一財) 高齢者住宅協会 (サラーム事業部)
 (一財) 高齢者住宅財団 (サラーム事業部)
全国自立援助ホーム協議会 (カルーナ事業部)
日本キリスト教保育同盟 (保育園)
 (公社) 京都市保育園連盟 (保育園)
京都市保育士会 (保育園)
京都家庭文庫地域文庫連絡会 (親子ライブラリー)
京都市こども文庫連絡会 (親子ライブラリー)

○委託および事業協力

京都府更生保護女性連盟
京都わかくさねっと

○京都 YWCA から他団体への寄付など

人権と労働の会 京都夜回りの会
 (社福) イエス団 愛隣館研修センター
 (社福) 西陣会
ベテスダの家後援会
釜ヶ崎キリスト教協友会
京都コリアン生活センターエルファ
NPO 法人東九条まちづくりサポートセンター
希望の家カトリック保育園(多文化共生委員会)
日本聖公会聖アグネス教会
Wam 女たちの戦争と平和資料館
オリーブの木キャンペーン (ブクラ)
反原発新聞京都市局チェルノブイリフクシマ京都実行委員会

■寄付者一覧 (敬称略、順不同)

○一般寄付 (法人支援)

宮武美知子、山本知恵、浅野献一、上村兪巳子、山下智子、清水義、伊原千晶、筒井奈都子、鍛冶富美子、
岡佑里子、安田順子、野原博子
日本キリスト教団京都丸太町教会、日本キリスト教団洛南教会、日本キリスト教団京都上賀茂教会、同志社
女子高等学校、(株)田中工務店、日本キリスト教団京都御幸町教会

●指定寄付

○100周年記念募金

安藤幸枝、伊原千晶、伊東眞代、井原圭子、一色光世、横川宏美、岡佑里子、下村泰子、河野伴子、吉田紀子、久保美恵子、宮武美知子、弘中奈都子、荒垣加津子、高幣喜文、高幣真公、今井貴美江、斎藤豊子、山本千鶴、児玉寿子、寺田有古、篠田茜、勝山久仁子、小杉總子、小池しをり、上村達郎、上村兪巳子、上田理恵子、上内鏡子、神岡茂子、神門佐千子、西村佐記子、斉藤洋子、浅野久代、太田興、大山悠子、鍛冶富美子、中村信博、中村美智子、中村和雄、長塩滋子、鶴崎祥子、田中愛子、筒井奈都子、日月公子、畠中隆子、半田淳子、平野晴美、平野富希、平野裕之、別所加恵、北垣景子、北村保子、本田次男、木下和江、野崎泰子、柳原亜木、有田佳子、匿名6名

(一財) 函館YWCA、福島YWCA、京都ウイングワイズメンズクラブ、(社) 西陣会 京都市民福祉センター、森本ぶどう園、日本キリスト教団京都上賀茂教会、(株) 田中工務店

○世界YWCA総会派遣募金

浅野献一、有田孝子

○親・子育て支援活動委員会

有田孝子、三上啓子、近藤純弘、橘まゆみ、赤尾陽子、岡佑里子、匿名1名
京都家庭文庫地域文庫連絡会、日本キリスト教団洛南協会、親子ライブラリー

○多文化共生委員会

安藤いづみ、森川和恵、森雄二郎、中川美佳子、田中康司、池上信子、同志社女子大学宗教部

進学支援募金

安藤いづみ、稲野真喜子、御前明美、寺田有古、神門佐千子、浅野献一、太田昭子、田中寿明、田中順子、有田孝子、坂井サト子、杉山麗、青井裕美、太田昭子、大畑京子、富田学、匿名1名

多文化子どもプログラム

河野伴子、安藤いづみ、一色光世、横江美佐子、宮武美知子、弘中奈都子、小池しをり、森田園子、坪野えり子、田中君枝、有田孝子、御前明美、上村兪巳子、浅野献一、内田匡子、飯田修、富田京子、友岡文

○A P T

マーサ・メンセンディーク、リンパヤラヤ・スプラーニー、安藤いづみ、宇山進、吉村富式、窪田誠司、御前明美、坂和優、篠田茜、手島千景、上原従正、上村兪巳子、上内英子、織田雪江、神門佐千子、杉山知子、斉藤洋子、石井ゆき、川島康史、大手理絵、田中愛子、田中康司、田中順子、土田亘、筒井奈都子、飯田奈美子、北垣由民子、北村保子、林律、築瀬仁志、高山亨、木戸さやか、近野玲子、荒垣加津子、上原従正、上内鏡子、菅原充子、西原美那子、斉藤洋子、浅野献一、村上ヨシ子、大西澄子、大畑泰次郎、中村美智子、仲本直子、飯田奈美子、北村保子、本田次男、岡佑里子、森田園子、池上信子、飯田奈美子、匿名7名

ヌヴェール愛徳修道会、ヌヴェール愛徳修道会地区本部、ノートルダム教育修道女会、京都・東九条CANフォーラム、同志社高校、同志社中学校、同志社女子大学宗教部、日本キリスト教団洛陽教会、日本キリス

ト教団平安教会、日本キリスト教団洛陽教会、希望の家カトリック保育園

○平和・環境活動委員会

今井貴美江、平野富希、達富かよ子

○活動グループ連絡会

手話カフェへ：安永雅代

○ファンドレイジング委員会

弘中奈都子

○ふれあいの居場所事業部委員会

宮武美知子、文田則子、河野伴子、太田昭子、木戸さやか、柳井一朗

○ユース委員会

大久保直樹、平安女学院中学・高等学校宗教センター、室町教会オリーブの会、日本キリスト教団室町教会

○自立援助ホーム「カルーナ」

*寄付

伊部恭子、井上摩耶子、井上里佳、臼井一美、横江美佐子、岡佑里子、河合由美子、亀田和代、若尾典子、舟木加代、小杉總子、小林裕彦、織田雪江、神門佐千子、水野篤夫、斉藤大輔、石田裕明、村松通子、大槻裕樹、竹岡哲朗、中野かおり、鶴崎祥子、筒井奈都子、浜田進士、文田則子、平野富希、有田佳子、竹之下雅代、木戸さやか、横川宏美、河野伴子、吉武恭子、山本いづみ、山本知恵、重谷秀星、森ののこ、野崎泰子、柳井一朗、匿名9名

自立援助ホームミモザの家、日本聖公会聖アグネス教会、同志社女子大学宗教部、日本キリスト教団京都南部地区、日本キリスト教団京北教会、日本キリスト教団桂教会、日本聖公会京都教区婦人会、平安女学院中学・高等学校宗教センター、認定こども園聖三一幼稚園（福井）、日本キリスト教団京都丸太町教会、日本キリスト教団京都丸太町教会シオン会、日本聖公会桃山キリスト教会婦人会、愛の図書 京都府更生保護女性連盟、(有) 家頭組、マラナタ会

*後援会費

吉村富式、山崎美和子、若尾典子、斉藤洋子、大山悠子、中野かおり、イエニックふたみ、伊原千晶、伊部恭子、井上依子、井上摩耶子、井上里佳、永井潤子、榎本愛美、奥村孝、横川宏美、横川幸治、館山英夫、亀田和代、近藤八津子、近野玲子、窪田誠司、桑畑祐治、兼井恵子、御前明美、弘中奈都子、山上義人、山本知恵、篠田茜、小宮一子、小杉總子、小川久美子、小林裕彦、上村愈巳子、織田雪江、神門佐千子、水野篤夫、雀部真理、西村由里、船越克真、大手理絵、大槻裕樹、竹岡哲朗、竹之下雅代、中野加奈子、辻川さとみ、坪野えり子、鶴崎祥子、定本ゆきこ、都木かおり、平野富希、堀部碧、野崎千代、有田佳子、林衛、齋藤常子、匿名4名、社) 西陣会

*教育奨励基金

伊東真喜子、伊部恭子、永井潤子、岩崎明生、吉村富式、吉田紀子、宮川道子、近藤八津子、御前明美、御

前隆、近野玲子、小宮一子、小泉小枝、神門佐千子、西村由里、寺田有古、竹内二三、坪野えり子、定本ゆきこ、澤井聡子、匿名3名

○京都YWCA あじさい保育園

浅野献一、横川宏美、安藤いづみ、上村兪巳子、岡佑里子、井上依子

○Amazon みんなで応援プログラム サンタクロース企画

山本剛聖、山口詩布、渡辺祥子、井谷奈央、中山航、尾野琢也、松永香織、鈴木傑、森吉弘毅、竹内裕子、有田麻奈美、黒嶋夕美子、中村雪野、小西淳一、永野智香、杉本光、桂田圭子、山下翔太郎、石田一、野原博子、三宅浩二、永井文菜、細谷千昌、市川明方やち、(株)泉谷オフィス文具館、(有)多賀文林堂フューラボ amazon 店、株式会社トロイ、すぴあーす関西店、東大ぱふえっと

■賛助費

清水義、日月公子、井原圭子、窪田左知己、臼井一美、上内鏡子、奥村孝、岡昭男、半田淳子、吉田繁、小林聡、中村美智子、中村和雄、白根睦久、北村保子、大城美代子、野崎泰子、中村信博、長谷邦彦、佐伯昌和、浅野久代、梓山悦子、伊東眞代、出店都、田中愛子、高島照子、匿名2名
(株)田中工務店

■物品寄贈者一覧（敬称略、順不同）

篠原若江、山科地区更生保護女性会、綾部地区更生保護女性会、神岡茂子、綴喜地区更生保護女性会、西澤良子、瀬津律子、松本三千緒、李承厚、右京区更生保護女性会、日本キリスト教団洛陽教会、中田喜久、舞鶴更生保護女性会、横尾久美子、上田賢博、平安女学院中学・高校、山口卓良、匿名1名

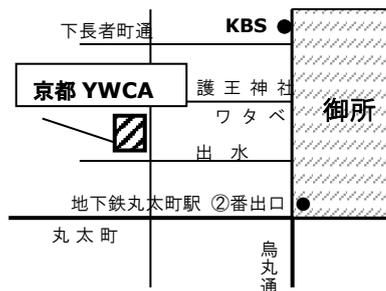
(公財) 京都 YWCA

〒602-801 京都市上京区室町通出水上ル

tel. 075-431-0351

fax. 075-431-0352

office@kyoto.ywca.or.jp



YWCA は、キリスト教を基に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際 NGO です。